１　文献名
『海ほがら』
２　学校名
若松小学校
３　災害名
昭和 19 年（1944 年）東南海地震
４　記述の概要
（１）雨や風、地震などの様子
栄養補給で希望者に肝油を配っていた矢先、グラグラッと大揺れがしたと同時に「それ、地震だ。机の下へもぐれ。」の声。どの子もぐっと机の下から私（先生）をにらみつけていた。花びんは台の上を飛び、壁が縦にひび割れ、掲げてある教訓額はぶらさがっていた。やっと揺れも静まり、西庭に避難した。(P110～111)
（２）学校内や地域の被害の状況
（３）復旧の様子
（４）体験談
（５）教訓など
出口で倒れた大きな下駄箱を見た時、外へ出していたら下敷きになった児童もいたことを思った。(P111)
（６）その他

１　文献名
『海ほがら』
２　学校名
若松小学校
３　災害名
昭和 28 年（1953 年）台風第 13 号
４　記述の概要
（１）雨や風、地震などの様子
海岸に出ると、恐ろしい波がいくつもいくつも荒れくるいながら押し寄せ、飛んでくる砂が顔や手足に痛く、そのうち家の屋根におおいかぶさる波が白いしぶきをあげてきた。(P122)
（２）学校内や地域の被害の状況
十三号台風によって伊勢湾岸は大きな被害を受け、若松も例外ではなく、特に浜田地区が大きな被害を受けた。(P121) 浜田沖の堤防が全面的に決壊し、堤防脇の人家が土砂で埋まった。(P64、122) 若松海岸地区で床上・床下浸水があり、被害が多大だった。(P157)
（３）復旧の様子
うそのような晴天となった翌日、先生たちは、被害にあった児童の家を一軒一軒まわったが、勉強道具は流されたり、使えなくなったりで、勉強どころではない状態だった。後で市から学用品を支給されたり、台風の作文集を作るなどした。(P122)
（４）体験談
家に帰ると、水面がずんずん夕方の町の中に気味悪く上がってきた。すでに床上浸水の家が出てきたので、生後六か月の赤ん坊をつれて夫とともに避難した。太田風呂屋と清水酒屋との間の道は腰まで濁流がうずまき、つけものだるの中のものや木片が流れてくる中を、側溝に足をとられないよう気づかいながら、こわれた洋傘を片手に足を運んだ。小学校の子どもも、懐中電灯を片手に、避難場所の西運寺に向かっていた。(P122)
（５）教訓など
（６）その他

１　文献名
『海ほがら』
２　学校名
若松小学校
３　災害名
昭和 34 年（1959 年）伊勢湾台風
４　記述の概要
（１）雨や風、地震などの様子
伊勢湾台風の前日には、風が強くなってきたので児童を通学団別に一斉下校させ、昼から全職員で東風の当たるところの窓ガラスを外からたる木で打って戸を補強した。講堂には 50～60 人の住民が避難した。(P123)
（２）学校内や地域の被害の状況
若松地区は台風の被害はよくあったが、中でも昭和 28 年９月の十三号台風と昭和 34 年９月の伊勢湾台風の被害は、かなりひどいものだった。 校舎の被害は、真ん中の屋根の瓦が少し飛んだ程度で済んだ。小川神社の松がたくさん折れ、海よりの家では床上浸水の被害を受けた。(P123)
（３）復旧の様子
翌日日曜日には、先生方が校区をまわった。教科書などを流したものもたくさんいた。教科書は再度交付してもらった。 月曜日には、平常に登校し、授業にも支障はなかった。(P123)
（４）体験談
（５）教訓など
（６）その他